

事業報告概要書（公表版）

1 基本情報							
施設名又はグループ名			指定管理者名及び団体概要				
横網町公園			(指定管理者名) 公益財団法人東京都慰霊協会 (団体の概要)				
指定期間			設立年月日：昭和22年3月29日 事業(1) 慰霊法要の執行と、慰霊堂及び公園施設の管理運営 (2) 震災・戦災の教訓の継承と防災意識の普及啓発				
R3.4.1～R8.3.31（5年間）							
2 施設名		3 収支(単位:千円)					
都立横網町公園	内訳	項目	令和6年度 金額	令和5年度 金額	令和4年度 金額		
		収入 計	74,994	72,764	69,977		
		指定管理料	74,994	72,764	69,977		
		利用料金					
		その他収入					
		支出 計	74,320	72,627	69,800		
	収支差		674	137	177		
4 管理運営の概要							
横網町公園の存在意義たる「慰霊と伝承の公園」として、きめ細かな植栽管理を基本に、命を尊ぶために欠かせない静謐な空間の創出による公園利用者の満足度向上を図る一方、東京大空襲80年のメモリアルイヤーを意識した自主事業イベントの推進により、前年の大震災100年事業の成果と共に来園者に対する認知度向上、更に新たな出会い（新規来園者）の拡大を図るべく管理運営を行ってまいりました。 具体的には、毎日直営職員による植栽管理と園内清掃の日常活動に加え、業務委託による計画的な施設定期メンテナンスの実施、また首都防災ウィーク、親子参加水上バスツアー、スタンプラリー、各種講習会（朝顔、ミニガーデン、クリスマスリース、七草鉢植え）など、横網町公園の独自の価値を訴求するイベントの実施により、多くの参加者・来園者に価値が届いたと考えます。 前年の震災100年事業に続き、本年は記念館の特別展開催など、特に東京大空襲80年に関わる展示、団体見学者への解説を重点的にを行い、合わせて収蔵品・絵画の修復対応への協力（震災遭難児童弔魂像の緊急修復対応など）も意識して行ってきました。一方、公園利用者の要望として、公園設備の拡充など、都市公園としての機能充実の求めに対し、ベンチの補修や段差解消、トイレを磨き上げる特別清掃など、経験豊かな直営職員と業務委託によりタイムリーに推進することが出来ました。 「静謐な慰霊の空間維持」と「都市公園としての機能の充実」と言う、ある意味「静謐・慰霊」と「活況・賑わい」と言うアンビバレントな役割をバランス良く実現していくことが今後の課題と感じています。							
5 管理状況							
①維持管理							
直営の職員による日常のきめ細かい活動を基本に、園地・園路清掃、剪定など植栽管理、施設の老朽化対応、日本庭園におけるベテラン職人の伝統的な技法による景観維持など、特に独自の存在意義である静謐な空間維持を念頭に各作業を推進して来ました。 また、安心安全対策については、慰霊の空間にとって重要な位置付けであり、園内の陥没修復、樹木診断結果に基づく伐採・伐根、外周部歩道及び電線接触樹木の剪定（外部業者への業務委託）など、常に状況を確認しながら適切な対応を取って来ました。 お客さま（来園者）視点で、記念館多目的トイレに共同桟の排水管を設置し、詰まりによる使用中止状態だった墨田区トイレが共用することで使用再開するなど、利用者視点、カスタマーファーストを意識した維持管理対応を行なって来ました。 周辺の保育園児の利用も多いことから、児童遊園の遊具や砂場の管理は安心安全を第一に計画的に推進、また、9月1日と3月10日の大法要は細心の注意を払いながら事前準備を行い、徹底した園内美化の下、占用集会による大きな混乱はなく、無事に終了することが出来ました。							
②利用者への対応							
ホスピタリティ、職員の対応の質向上を目指し、利用者の声（要望）やクレームには誠意をもって対応、レスポンスある改善策の提案など、上記維持管理の考え方と連動して活動して来た結果、「きめ細やかな配慮と対応に感謝」という来園者の声（アンケート評価：4.6）を頂いています。 また、園内でのイベントは自主事業も含め、過去参加者から好評を頂いており、継続希望も多い横網町公園ならではの特長的なイベント（事前予約で満席）となっています。リピーターの多いイベントですが、自主事業では新たな公園利用者の拡大にも繋がっており、これは「水上バスで行く夏休みぼうさいツアー」においてQRコードを使った申し込みなど、少ないマンパワーで効率良く推進する工夫として新たな試みでもありました。また、恒例の防災ウィークを中心に本年度は東京大空襲80年の企画として慰霊音楽会など、「災害と防災」の視点で企画された自主事業イベントや地域連携イベントも多くの参加者を集め、好評裡に終了することが出来ました。							
6 利用者アンケート結果							
実施方法：紙とWeb（QRコード）アンケート							
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応		
横網町公園	4.7	4.5	4.1	4.5	4.6		
園内の静けさや清潔な美観をはじめ、震災・戦災の犠牲者を慰霊する静謐な公園であることの評価が高い。更に、職員による公園維持管理、お客さま対応への高い評価についても、職員の来園者に対するホスピタリティ意識など、「身近で、顔の見える」公園という印象を来園者に与えていると考えられる。 その一方、公園の機能としての評価については、トイレの清潔さの半面、数の少なさ、また、一部のフリーアンサーから休憩スペースの拡充や老朽化したゴミ箱の刷新などを要望される面もあり、その他、様々なイベントの要望など、都市公園として充実を望む声もある。 概して、横網町公園の使命・目的である「震災・戦災の歴史を今に伝え、犠牲者の慰霊のための静謐な空間」については高い評価を頂いているが、都市公園としての機能面に物足りなさを感じる方もいることから、アンビバレントな要望（「慰霊のための静謐さ」⇔「行楽的な賑わい」）のバランスの良い両立が課題かと思われる。							
7 入園者数の状況（単位：人）							
施設名	当該年度	分析					
横網町公園	251,461	前年度が関東大震災100年という節目の年度であり、記念館のリニューアルなど、来園者の増加により対前年1.6倍の入園者数であったため、本年度は対前年86%だが、一昨年対比では106%となった。 また、内訳として復興記念館についても、昨年の震災100周年の実績からは89%減少したが、一昨年対比では106%と来館者数は堅調な実績を上げた。					
(内：復興記念館)	(34,626)						
合 計	251,461						

施設名 横網町公園

指定管理者名 公益財団法人東京都慰霊協会

＜公園の存在意義を高める＞ 命を尊ぶ静謐な環境づくり

関東大震災及び東京大空襲による多くの犠牲者のご遺骨をお預かりしている横網町公園では、その存在意義を高めるため、「大法要」などの慰霊を行う場として相応しい「命を尊ぶ静謐な環境づくり」を第一に、園路（石畳）や児童遊園の砂場などの清掃及び、日本庭園をはじめとする植込み地の植栽管理（除草・草刈り・樹木剪定など）、計画的に直営職員により日々、丁寧に行われています。また「慰霊堂」「復興記念館」において、見学者に対する接遇、解説業務は慰霊協会職員と一体となって行い、更に季節ごとの「和のおもてなし空間」を彩る装飾やイベント、春と秋の特別展における「歴史を風化させず、後世に教訓を継承していく」活動を年間を通して推進して来しました。

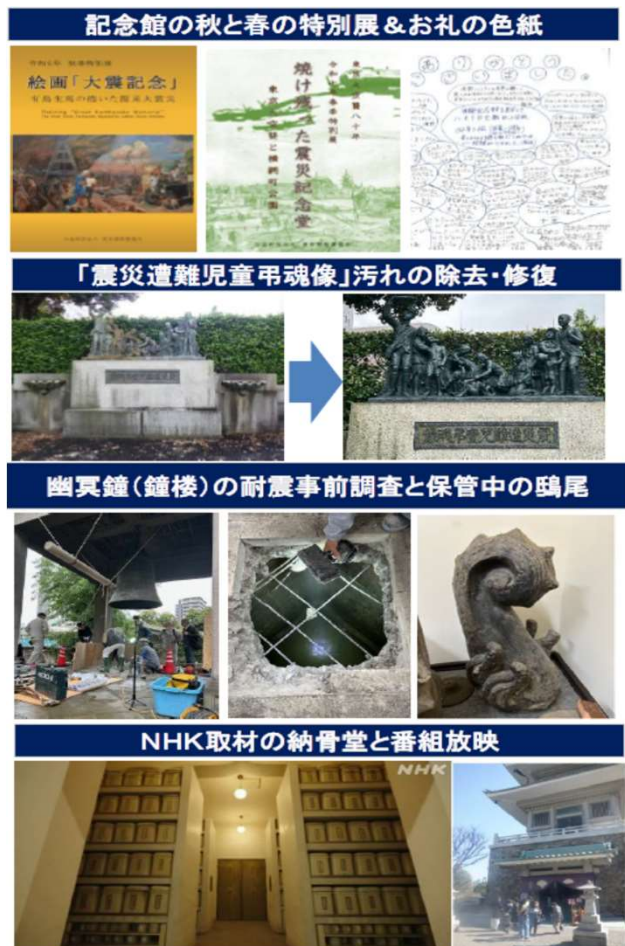
秋の大法要では台風のため直前で皇室・来賓の参列を中止にする中、朝鮮人犠牲者慰霊碑周辺における占用集会に関する来園者の安心安全対策など、静謐な園内環境を守るため、東京都及び警察と協力し、適切な対応を図りました。春の大法要は東京大空襲80年として皇室及び政府高官が列席する中、多くの来園・参拝者も集まり滞りなく行われました。また、納骨堂の事前取材なども含め報道の反響もあり、来園者の中には初めて「慰霊堂」を知ったとの声もあり、ご遺骨照会の問合せも増加し、これら活動の積み重ねの結果、公園の美しい景観、静謐で荘厳な雰囲気、慰霊堂と共に、横網町公園独自の存在感も高まったと考えます。



＜震災・戦災の歴史を風化させない＞ 東京大空襲80年～終戦80年メモリアルイヤー

昨年リニューアルした復興記念館では、常設展示の見直し、展示替えの他、特別展として「秋季」では画家が実際に見聞した関東大震災の記録をテーマに「有島生馬（没後50年）が描いた関東大震災」を、「春季」では慰霊堂が大空襲を免れた様々な通説を通じて東京大空襲を振り返る「焼け残った震災記念堂」の特別展示を行い、それぞれ来館者の関心を集めました。また、特に東京大空襲80年の3月にはマスコミ各社（テレビ、新聞、雑誌）からの取材が増加、それぞれの取材要望に対応しました。特にNHK（首都圏ネットワーク）にて放映された納骨堂の内容については反響が多く、「空襲犠牲者のご遺骨」に関する問い合わせが増加、電話及び来所により約60件程の確認を行いました。その内1名の方に該当者があり、引き渡し手続きを開始しています。

また、収蔵品について東京都の計画に沿って、大型絵画を4点（記念館2点、慰霊堂2点）補修に協力し、又、赤錆と思われる著しい汚れが発生した「震災遭難児童弔魂像」については秋の大法要に間に合うよう緊急に補修対応を行いました。その他、鐘楼の耐震補強工事に向けた事前調査へ協力し、耐震補強と共に東日本大震災で損傷した「鵲尾」の再現も目指しています。昨年度の関東大震災100年の取り組み成果を踏まえ、増加した来園者に対して、一層の関心を寄せて頂くために、3月の東京大空襲80年、更には8月の終戦80年に向け、後述の自主事業イベントの開催、収蔵品の補修、寄贈品の受け入れ、取材対応、等、メモリアル・イヤーを意識した活動を継続しています。



＜公正で安全安心な公園づくり＞ 適切な維持管理を行うための取組

保育所の園児達が日々遊ぶ公園として、安心安全について適切な管理を行い、児童遊具点検や砂場清掃など、細心の注意を持って業務にあたっています。景観を維持するため、垣根（四ツ目垣など）の刷新、補修、また、都内で発生した枝落下事故の事例を踏まえて、枯枝を中心とした剪定だけでなく、健康な樹木の中でも事故未然防止・危険回避の観点から一部（電線接触や外周歩道及びパーキング車両上の枝）について適切な状態を保つための剪定を行いました。また、記念館多目的トイレの新たな共同桝の排水管設置により、使用中止状態であった墨田区のトイレも使用再開し、利用者の利便性が図られました。前述の9月1日大法要での朝鮮人犠牲者慰霊碑周辺における来園者の安心安全対応については、集会を行う各団体と事前の協議を重ねたことで、多くの警備員を動員しながらも、ほぼ平穩に終了しました。和の雰囲気のある静謐な公園として「婚礼前撮り」などの占用申請も多く、これは日頃からカスタマーファースト、ホスピタリティを意識した丁寧な維持活動の成果であると考えています。

園内の園児達と砂場清掃



秋の大法要(9/1)朝鮮人犠牲者慰霊碑周辺



＜質の高いサービスの提供＞ 季節感や特徴のあるイベント

横網町公園ならではの特徴あるイベントについては、11の園内イベント、8の自主事業イベントを開催しましたが、いずれも来園者の関心が高く、熱心なリピーター（ファン）の育成と新たな出会い（初参加）の拡大にも貢献しました。特に「和の空間」を背景とした「朝顔行燈作り」「春の七草鉢植え」「苔のミニガーデン作り」、また園内の素材を使った「クリスマスリース作り」の講習会は希望者が殺到し、募集開始早々に満席となる盛況ぶりでした。また「秋の収穫祭どんぐり祭り」では園内のイチョウから取った銀杏の無料配布や工作教室、日本の季節イベント（鯉のぼり、七夕、月見、門松、雑祭り、など）はインバウンド来園者の増加を受け、英語による解説表示などを取り入れ、多くの来園者に好評の季節の風物詩となっています。

「春の七草」と「苔のミニガーデン」



「正月・門松」と「雑祭り・吊し雑」



＜魅力向上と利用促進のための自主事業＞ 次期5ヵ年に向けて（成果と課題）

今年度の自主事業の取り組みは、街歩きツアー（春、秋）とスタンブラリー（春休み、夏休み）と献花展（春、秋）の恒例のイベントに加え、とりわけ好評だった企画、親子で学ぶ夏休みぼうさいツアー（水上バスで行く東京臨海広域防災公園）、防災ウィーク講演会「関東大震災と井下清（生誕140年）」、及び地域連携企画である両国中学校との「慰霊音楽祭」（合唱、吹奏楽、演劇、ダンスの総合舞台）があり、これらは横網町公園独自の「慰霊」と「防災」を意識した内容として、震災・戦災の記憶と教訓を次世代へ継承する上で、有意義なイベントとなりました。イベント参加者のアンケート・コメントから、様々な気付きと共感を感じることが分かりました。

過去の歴史（教訓）を今に伝え、その継承と未来に向けた活動を行うと共に、加えて、満足度調査アンケートの要望から見えてきた「都市公園としての機能拡充」という課題も受け止め、「静謐な慰霊の公園」と「楽しく賑わいある公園」という、ある意味アンビバレントな2つの課題を如何にバランス良く実現させていくか、今後、成果を検証しつつ、課題への取り組みを進めて行きたいと考えています。

親子で学ぶ夏休み防災ツアー



東京大空襲80年平和と希望の集い

